

保健体育科学習指導案

期 日 平成30年 6 月 1 日 (金) 第 1 校 時
場 所 附 属 中 学 校 体 育 館
対 象 3 年 3 組 4 0 人
指導者 教 諭 下 田 啓 介

1 単元 球技 ネット型(バレーボール)

2 単元のねらい

(1) 目標

バレーボールの特性を理解しながら自己や自チームの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。作戦に応じた技能と仲間と連携した動きを展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

(2) 評価規準

【運動への関心・意欲・態度】

- ア バレーボールに自主的に取り組もうとしている。
- イ ルールやマナーを守り、相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。
- ウ 練習や試合などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって取り組もうとしている。
- エ 自己や自チームの課題解決に向けて自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、話し合いに責任をもってかかわろうとしている。
- オ 練習や試合などで互いに助け、教え合おうとし、自主的な学習を行いやすくしようとしている。
- カ 用具の安全確認の仕方、段階的な練習の仕方、けがを防止するための留意点などを理解し、学習に取り組もうとしている。

【運動についての思考・判断】

- ア 提供された戦術から自己や自チームの特徴を踏まえて作戦を立てられている。
- イ 仲間に対して技術的な課題を指摘している。
- ウ 仲間と協力する場面で分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。
- エ 健康や安全に留意して、体調や技能に応じた練習方法を選んでいる。

【運動の技能】

〔役割に応じたボール操作〕

- ア ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返している。
- イ 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げている。
- ウ ネット付近のボールに対し、ネットより高い位置から侵入を防いだり、打ち返したりしている。
- エ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりしている。

〔連携した動き〕

- ア ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーしている。
- イ 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動いている。

【運動についての知識・理解】

- ア バレーボールに関する技術の名称やボール操作の行い方について理解している。
- イ 学習した戦術や作戦をゲーム中に適切に発揮することが、攻防のポイントになることを理解している。
- ウ 補強運動を繰り返したり継続して行ったりすることで、様々な体力要素が高まることを理解している。
- エ 自己観察や他者観察などを通して、個人やチームの課題が明確になり、学習成果を高められることを理解している。
- オ バレーボールのゲームのルール、審判や運営の仕方について理解している。

3 球技 ネット型(バレーボール)の特性

(1) 一般的特性

- ア ネットを挟んで相対する2チームが、サービス、パス、トス、スパイク、ブロック、レシーブなどの技能を用い、得点を競い合うネット型の集団的スポーツである。
- イ 絶えず移動しているボールに巧みなフットワークで対応するため、瞬発力や敏しょう性、巧み性などの体力的要素が必要とされるスポーツである。
- ウ バレーボールは6人制や9人制があり、健康づくりや体力づくりのために広く普及し、親しまれているスポーツである。
- エ バレーボールは安全に配慮した道具の扱い方や場の設定などを必要とするスポーツである。

(2) 生徒の側から見た特性

- ア 仲間と協力してボールをつないでラリーが続くと、ゲームや練習が盛り上がり楽しい。
- イ スパイクやブロックなどの個人的技能を習得し、ゲームの中で発揮できるようになると嬉しい。
- ウ ゲームで得点が入ったり、勝利したりすると嬉しい。
- エ 強くて速いボールが来ると怖い。

4 生徒の実態【3年生 196人実施 実施日：平成30年4月27日(金)】

(1) 体育の授業は好きですか。

好き	54%
どちらかという好き	32%
どちらかという嫌い	12%
嫌い	2%

(2) 体育で行う運動やスポーツは得意ですか。

得意	15%
どちらかという得意	42%
どちらかという苦手	34%
苦手	9%

(3) バレーボールは好きですか。

好き	46%	<好き・どちらかという好きの理由> ・仲間と一緒にボールをつないでいくところが面白いから。 ・ボールが思ったところに返せたときに嬉しいから。 等 <嫌い・どちらかという嫌いの理由> ・ボールを触るのが怖いから。 ・うまくできず、周りの人に迷惑をかけてしまうと思ってしまうから。等
どちらかという好き	32%	
どちらかという嫌い	14%	
嫌い	8%	

(4) バレーボールは得意ですか。

得意	9%
どちらかという得意	39%
どちらかという苦手	40%
苦手	12%

(5) バレーボールの学習で身に付けたい技能は何ですか。

スパイク	33%
サービス	25%
オーバーハンドパス	19%
アンダーハンドパス	17%
その他(ブロック、フェイント)	6%

(6) どのようなことを授業に望みますか。

バレーボールのゲームをするために必要な技能を教えてもらいたい	78%
体力を高めたい	47%
上手な動きをしている人を見たい	45%
審判方法やルールについて詳しく知りたい	17%
学習資料等を活用して分かりやすく教えてもらいたい	5%
その他(試合をたくさんしたい、様々な戦術を知りたい、いろいろな練習方法を知りたい等)	8%

(7) 自分やチームの課題を解決していくためには、何が大切だと思いますか。

友人からのアドバイス	81%
話し合いを中心とした活動	11%
学習カード	1%
その他(練習時間をもっと増やす、バレーボール経験者からのアドバイス等)	7%

(考察)

質問1より体育の授業は好き、どちらかという好きという生徒が86%おり、体育に対して好意をもっている生徒がほとんどである。しかし、質問2から、好意はもっているが運動が得意ではないと思っている生徒もいることが分かる。

質問3から、バレーボールが好き、どちらかといえば好きという生徒が78%おり、多くの生徒はバレーボールに好意をもっていることが分かる。一方で、バレーボールが嫌い、どちらかという嫌いと答えた生徒は22%おり、その理由としては「ボールを触るのが怖い」「ボールコントロールがでず、仲間に迷惑をかけてしまう」などが挙げられた。

質問4から、バレーボールが苦手、どちらかという苦手と答えた生徒が52%いることから、技能面で苦手意識をもつ生徒が多くいることが分かった。また、質問5から、スパイクを身に付けたい動きとして挙げている生徒が33%いた。さらに、質問6から、「バレーボールのゲームをするために必要な技能を教えてもらいたい。」と答えた生徒が78%いることから、単元を通して役割に応じたボール操作や連携した動きを身に付けることができるような授業を計画していく。

質問7から、自己や自チームの課題を解決していくためには、「友人からのアドバイス」が大切と答えた生徒が81%いることが分かる。このことから、お互いの動きを観察して話をさせたり、課題に対して仲間と共に試行錯誤させたりする場면을授業に取り入れることで、より意欲的に練習に取り組ませることができると考える。

以上のことから、本単元ではバレーボールの基本的な技能習得、習熟を図るとともに、授業の導入場面の展開を工夫することで、生徒が能動的に課題を設定し、解決していく中でバレーボールの楽しさやできる喜びを味わえるような授業を展開していく。

5 球技 ネット型(バレーボール)学習・指導の意義

- (1) 自己や自チームの技能に応じた課題を設定して解決を図ることで、技能の習得や仲間と連携した動きが高まり、運動の楽しさや喜びを味わい、運動に親しむ習慣や態度を育てることができる。
- (2) バレーボールの特性である、自己の役割を果たし、集団での連携した動きを学習することで、社会生活に必要な態度を身に付けることができる。
- (3) 練習やゲームの仕方を工夫したり、自己や仲間の動きを観察、分析したりする学習を通して、体育学習全般における知識や理解を深めることができる。
- (4) 道具の扱い方や場の設定に配慮し、ルールやマナーを守って練習やゲームに臨むことで、健康や安全に留意する意識を高めることができる。

6 球技 ネット型(バレーボール)学習指導上の方針・方策

- (1) 『能動的に』課題解決を図らせるための形成的評価の工夫【実践編Ⅰ p69】
生徒がこれまで身に付けてきた知識・技能や経験を活かし、能動的に課題解決を図るために、N Nシートを作成し、活用する。具体的にはこれまでの学習で記入した内容を課題設定の場面で確認したり、まとめの場面で本時の学習内容についての自己評価を行ったりする。
- (2) ジグソー法を用いた学習過程の工夫【実践編Ⅰ pp94～95】
仲間と積極的に交流し、動きをつくり上げるためにジグソー法を用いた学習過程の工夫を行う。具体的には局面構造に着目したエキスパート練習で気づきを得た後に、ホームグループ練習で仲間と動きをつくり上げる練習を行う。
- (3) 動きの手がかりを見いださせる指導の工夫【実践編Ⅰ p46】
動きのイメージを鮮明にもたせ、動きの手がかりを見いだしやすくするために、横と後ろの2方向から動きを捉えた連続写真を学習資料として活用する。具体的には動きの習得場面、つまりしている生徒の補充的学習の場面で積極的に活用する。
- (4) 保健体育科におけるリーダー育成の工夫【実践編Ⅰ p95】
チームとして活動する際に必要不可欠な存在であるリーダーを育成するために、リーダーシップを形成し、発揮させる工夫を行った。具体的には「リーダーブック」というリーダーの心構えや役割を明確に示した資料を配付し、リーダーシップの発揮の仕方を学ばせる。さらに、授業の中で「リーダータイム」という時間を設定し、活動の流れを確認させたり、進捗状況を報告させたりするなど、リーダーシップを発揮する場も設定する。

7 球技 ネット型（バレーボール）学習・指導計画

段階	時間	学 習 内 容 及 び 学 習 活 動			評 価 計 画
		技能の内容	●態度の内容	□知識, ■思考・判断の内容	
オリエンテーション	1	◇ レディネステスト ・ アンダーハンドパス ・ オーバーハンドパス ・ サービス ・ スパイク ◇ 補助運動の確認 ・ 対面移動パス	● バレーボールに自主的に取り組もうとしている ● 用具の準備や安全確認, 後片付けに進んで取り組もうとしている ● 互いに助け合い, 教え合おうとし, 協力して練習を行おうとしている	□ バレーボールの成り立ち, 用語や名称, 特性, 安全面の留意事項, 単元の見通し等について理解している □ 補助運動を通して, バレーボールで求められる動きに関する体力(瞬発力, 巧ち性, 敏しょう性, 筋持久力など)が高まることを理解している	1 知 バレーボールの成り立ちや用語, 特性について理解しているか 1 関 用具の準備・片付けなどの分担した役割に進んで取り組もうとしているか 1 思 補助運動の動きについて自己や仲間の動きの違いについて指摘しているか
	2 3 ④ 5	◇ ボール操作(ゲームを通して) ○ ポジションの役割に応じたボール操作 ・ アンダーハンドパス ・ オーバーハンドパス ○ ねらった場所に打つ ・ サービス アンダーハンドサービス オーバーハンドサービス フローターサービス ○ ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込む ・ Aクイック ・ スパイク ・ パスアタック ・ フェイント ・ ブロック	● ボール操作の課題解決に向けて自主的に練習に取り組もうとしている ● 用具の準備や安全確認, 後片付けに進んで取り組もうとしている ● 自己や自チームの技能の程度に応じた練習へ取り組もうとしている ● 互いに技能のポイントや動きのコツについて教え合おうとしている ● 練習場所の安全を確認しながら練習を行おうとしている ● 練習時のルールやマナーを守り, 相手を尊重したフェアなプレイを大切にしようとしている	□ 基本的なボール操作などの動きについて, 技術の名称, 行い方を理解している ■ 自己や自チームの課題に対して, 効果的な練習の仕方を選択している □ 技能習得の場面において, 協力して他者とのよりよい関わり方を見付けている □ 繰り返し練習したり, 継続して行ったりすることで, バレーボールで求められる動きに関する体力(瞬発力, 巧ち性, 敏しょう性, 筋持久力など)が高まることを理解している ■ 仲間の動きを観察し, 自己や他者の動きの違いを指摘している	2 関 自主的に練習に参加しようとしているか 2 知 技術の名称や正しい動きの仕方について理解しているか 3 技 相手コートの空いた場所やねらった場所にボールを打つことができるか 3 関 パス, サーブ, スパイクなどの練習において, 互いに技能のポイントや動きのコツについて教え合おうとしているか 4 思 仲間の動きを観察して技術的な課題を指摘しているか 4 技 ネットより高い位置から打点の高いスパイクを打つことができるか 5 思 仲間と協力する場面で分担した協力の仕方を見付けているか
仲間と連携した動きの習得を図る段階	6 7 8 9 10	◇ 連携した動き ○ ポジションの役割に応じた動き ＊ ネットより高い位置から攻撃をする ・ 三段攻撃 ＊ ポジションの役割に応じて, ボールを拾ったりつないだりして打ち返す ＊ ネット付近でのボールの進入を防いだり, 打ち返したりする ・ ブロック ・ パスアタック ＊ 場面に応じたフォーメーションの位置に動く 《攻撃フォーメーション》 ・ 速攻 ・ オープン 《守備フォーメーション》 ・ サービスレシーブ ・ スパイクレシーブ ＊ ラリーの中で, 味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーする ○ 正式ゲームのルール確認	● ポジションの役割に応じた課題解決に向けて, 話し合い活動へ積極的に関わろうとしている ● 自己や自チームの技能の程度に応じた練習へ進んで取り組もうとしている ● 練習場所の安全を確認して, 健康・安全に留意しながら練習に取り組もうとしている ● 互いに助け合ったり, 教え合ったりしながら, 味方の動きをカバーしたり, フォローしたりしようとしている ● 練習やゲーム時のルールやマナーを守り, 相手を尊重したフェアなプレイを大切にしようとしている	□ 自他のチームの動きを観察・分析しながら, 合理的な連携した動きの仕方を見いだしている □ 話し合いの場面において, 他者とのよりよい関わり方を見付けている ■ 仲間に対して, 技術的な課題や効果的な練習方法の選択の仕方を指摘している ■ 連携プレイに必要な役割に応じた動きの仕方を見付けている □ ゲームのルール, 審判の仕方や運営方法について理解している □ ゲームにおける安全上の配慮について留意している	6 技 ラリーの中で, 味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーしているか 7 思 自己や自チームの連携した動きに関して課題を見だし, 練習を選択しているか 8 関 自己や自チームの課題解決に向けて, 積極的に話し合い活動に参加したり, 改善点をお互いに指摘し合ったりしているか 9 技 味方の動きに合わせてカバーしたり, 連携プレイのためのフォーメーションに応じて動いたりしているか 10 思 仲間と連携した動きを高めるために必要な練習の仕方を工夫しているか 10 知 ルール, 審判方法や運営の仕方について理解しているか
まとめの段階	11 12 13	◇ ゲーム ○ 総当たり戦のリーグ戦 ＊ チームや自己の変容の把握 ＊ 競技規則や審判法の理解	● 練習してきたことを仲間と協力して, 精一杯力を発揮しようとしている ● 仲間と協力しながら進んで大会運営に参加しようとしている ● ルールやマナーを守り, 相手を尊重したフェアなプレイを大切にしようとしている	□ ゲームのルール, 審判の仕方や大会運営の方法について理解している ■ 自他のチームの特徴を踏まえた作戦を立てたり戦術を選択したりしている ■ チームで試合の結果と内容を振り返り, 学習のまとめをしている ■ 練習やゲームを通して自分なりのバレーボールへの関わり方を見付けている	11 知 これまでに学んだ戦術や作戦が攻防のポイントになることを理解しているか 11 思 ポジションの役割に応じた動きを発揮しようとしているか 12 技 連携プレイのための基本的なフォーメーションの位置に動いているか 13 関 ゲームを通して, ルールやマナーを守り, 相手を尊重したフェアなプレイを大切にしようとしているか

8 本時の実際

(1) 指導区分 4／13

(2) ねらい

- ア 仲間と協力し合いながら、バレーボールの練習に自主的に取り組もうとしている。
- イ 仲間に対して技術な課題について指摘している。
- ウ ネットより高い位置から早いタイミングでボールを打ち返している。
- エ バレーボールにおける技術の名称やその具体的な動きの仕方について理解している。

(3) 本時の学習過程

学習過程	時間	学習内容及び学習活動	○留意点●援助・支援★研究手立て
準備運動 補助運動	1	はじめ - 用具準備，練習場の安全点検 - あいさつ，出欠確認，健康観察	○ 用具確認，練習場，その周辺の安全確認を行う。 ○ 出欠・健康状態の確認，見学者への指示をする。
	2	附中体操1 附中体操を行う。	○ 正確な動作で附中体操を行わせる。
	3	補助運動2 グループで対面移動パスを行う。	○ これまでに学習してきた技能のポイントを意識させながら取り組ませる。
学習課題の 確認	5	試行3 前時の授業で確認をしたAクイックの練習を行い，自己の課題の焦点化を図る。	○ 試行を通して自己の動きの現状を的確に捉えさせるために観点を与える。
	3	診断 学習課題の確認4 【学習課題】 Aクイックをよりよく行うためには，体の動きをどのように工夫すればよいだろうか。 本時の学習課題を明確にし，学習への見通しをもつとともに，自己の課題について考える。	★ 能動的な課題解決に生かすためにNNシートを活用する(実践編Ⅰ p69)
	20	確認 相互練習Ⅰ5 【相互練習Ⅰ（エキスパート練習）】 「助走・踏み切りパート」「スイングパート」に分かれて，それぞれの活動場所でパート課題の追究を行う。 ステージ 助走・踏み切りパート スイングパート	★ ジグソーを用いた学習① 相互練習Ⅰ(エキスパート練習) 各運動局面に分かれて課題を焦点化し，練習を行わせる。各運動局面についての体の動きを高めさせるとともに，動かし方について深く考察させる。(実践編Ⅰ pp94～95)
相互練習		補説 相互練習Ⅱ6 【相互練習Ⅱ（ホームグループ練習）】 エキスパート練習で各メンバーが身に付けた動きの知識や技能をメンバーと教え合いながら練習を行う。	★ 体の動きのイメージをより鮮明にするために，2方向からの動きをとらえた連続写真を提示する。(実践編Ⅰ p46)
	7	診断 学習成果の確認7 【学習成果の確認(Aクイックの実施)】 - 相互練習ⅠⅡで工夫したことや気付いたことなどを意識しながら確認をする。 - これまでの学習を基に互いの動きを観察し合いながら確認をする。	★ リーダータイムを設定し，ホームグループでの活動の指示を行う。(実践編Ⅰ p95)
	5	診断 本時のまとめ8 【本時のまとめ】 自己の課題に対する振り返りを行い，工夫したことや気付いたことなどをNNシートにまとめる。	● 理想とする動きをイメージさせるための生徒のモデル提示や教師の師範
成果確認		次時の課題把握9 【次時の課題把握】 本時で身に付けた技能が仲間と連携した動きにつながることを確認して，次時への意欲を高める。	★ ジグソーを用いた学習② 相互練習Ⅱ(ホームグループ練習) 各エキスパート練習で身に付けたことをホームグループのメンバーに伝えさせ，Aクイックの動きをつくり上げさせる。(実践編Ⅰ pp94～95)
反省評価	3	整理運動10 【整理運動】 - 手足を中心にストレッチを行う。 - あいさつをする。 - 用具の後始末をする。 おわり	○ 課題を意識させながら，再度Aクイックを行わせ，成果の確認をする。
課題把握	1		★ 自己の課題に対する評価や工夫したことや気付いたことなどをNNシートに記入させる。(実践編Ⅰ p69)
整理運動			○ 本時の学習活動で新たに気付いた点や課題などに触れ，次時の学習活動への意欲と見通しをもたせる。 ○ 身体の状態やけがの有無について確認する。 ○ 用具の後始末の確認をさせる。

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時	平成 30 年 6 月 1 日（金）	第 1 校時
対 象	3 年 4 組	4 0 人
指導者	教 諭	山 口 隼 人

1 内容及び題材名 A 家族・家庭と子どもの成長 「幼児の生活と遊び」

2 題材設定の理由

近年、少子高齢化の進行や社会の変化に伴って家族形態も多様化し、家庭生活は様々に変化してきている。特に、少子高齢化の進行はますます顕著になり、中学生が幼児とかかわる機会も極めて少なくなっており、幼児の発達や生活、関わり方について学ぶ機会が減少している。幼児との触れ合いや学ぶ機会の減少は、親の育児不安とも関係し、さらに少子化へとつながる悪循環が生じているとも考えられる。このような中で、中学生が家族・家庭と子どもの成長に関する学習課題に取り組み、異世代である幼児を理解し、思いやりや豊かな心を育むことは意義深いことである。また、人の一生の中で中学生としての位置づけを考えながら、人間の成長や発達と、幼児および中学生である自分と家族・家庭や社会との深い関わりを認識することは、大変重要なことである。

「A 家族・家庭と子どもの成長」では、幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的に関わることができるようにし、これからの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

生徒は、半数が一人っ子、もしくは末っ子である。また、核家族の形態の家庭がほとんどであり、家族内に幼児がいる生徒もごくわずかである。そのため、幼児との交流の機会は極めて少ない状況にある。保育に関する学習に関心をもっている生徒も少なくはないが、苦手意識をもっている生徒も4割ほどいるのが現状である。

指導に当たっては、生徒がより主体的に学習に取り組めるように、題材の始めに「すっどカード」を用いて学習に見通しをもたせたい。題材の前半部分では幼児の身体の発育や心の発達等、幼児の生活についての基礎的・基本的な知識を習得させたい。それらを踏まえて、題材の後半部分では、幼稚園訪問を見通して、目的や対象に合った幼児の遊び道具づくりを行わせる。題材の前半や他教科等で習得した知識を活用し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、どのような遊び道具が適しているか、課題の解決に向けて構想を探究させることにより深い学びにつなげたい。終末は実際の幼稚園訪問を経て、幼児への関心を高めるとともに、そこでの学びを振り返らせ、実践を評価・改善し、幼児の生活をよりよくするために新たな課題に主体的に取り組む態度を育てられるよう指導したい。

以上のことから、実践的・体験的な学習活動を充実させながら、習得した知識や技能を活用し、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育成できるように本題材を設定した。

3 題材の指導目標

- (1) 幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組ませ、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとする態度を育てる。
- (2) 幼児の生活と家族について課題を見付けさせ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造できるようにさせる。
- (3) 幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。
- (4) 幼児の生活と家族について理解させ、基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

4 題材の評価規準と指導計画

(1) 評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術について の知識・理解
① 自分の成長の振り返りを通して、幼児の成長に関心をもっている。 ② 幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、遊び道具の製作に取り組もうとしている。 ③ 幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、幼児と触れ合う活動の計画に取り組もうとしている。 ④ 幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。	① 幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方について考え、工夫している。 ② 幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して遊び道具の製作の計画を自分なりに工夫している。 ③ 遊び道具の製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 ④ 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして、よりよい遊び道具や遊び方について考え、工夫している。	① 幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。	① 幼児の身体の発育や運動の機能の特徴について理解している。 ② 幼児の言語、情緒、社会性の発達の特徴について理解している。 ③ 基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。 ④ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ⑤ 幼児の遊びを支える環境について理解している。 ⑥ 幼児の発達を支える地域の役割について理解している。

(2) 指導計画 (全 14 時間)

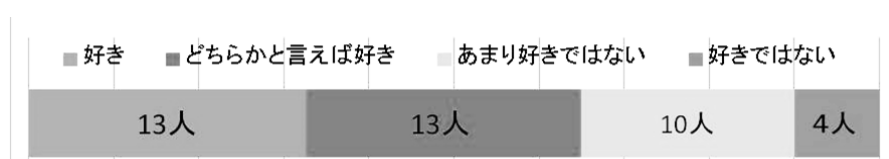
学習内容	時数	主な指導内容	評価規準
わたしの成長をたどる	1	自分の成長を振り返らせ、幼児期の心身の発達に関心をもたせる。	アー①
幼児の体の発達	1	幼児の体の発達の特徴を理解させる。	エー①
幼児の心の発達	1	幼児の心の発達の特徴を理解させる。	エー②
幼児の心身の発達と 家族の役割	1	幼児の生活の特徴を理解させ、家族の役割・関わり方について考えさせる。	エー③
幼児の遊びと発達	1	幼児の遊びの特徴に気づかせるとともに、幼児の遊びの意義について理解させる。	エー④
幼児の遊びを支える	1	幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境について考えさせる。	エー⑤
	1 (本時)	遊び道具の評価を通して、幼児の発達段階に応じた遊び道具や遊び方について工夫している。	イー①
幼児の遊びを支えるもの の構想 (生活の課題と実践)	1	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具の製作について構想を練らせ、製作の計画を立てさせる。	イー②
幼児の遊びを支えるもの の製作 (生活の課題と実践)	夏季 休業	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具を製作させる。	アー②
製作した遊び道具の報告 (生活の課題と実践)	1	製作した遊び道具について報告させて、互いの遊び道具を評価させる。	イー③
子どもの成長と地域	1	子どもの成長と地域との関わりについて理解させる。	エー⑥
触れ合い体験の前に	1	幼児と触れ合うための計画を立てさせる。	アー③
触れ合い体験をする (幼稚園訪問)	2	幼児との関わり方を工夫しながら、触れ合い体験をさせる。	アー④ ウー①
触れ合い体験をふり返る	1	触れ合い体験を振り返らせ、製作した遊び道具の評価・改善を図らせる。	イー④

5 生徒の実態（実施：平成 30 年 4 月 20 日 対象：3 年 4 組 40 人）

(1) あなたは保育の学習に興味がありますか。



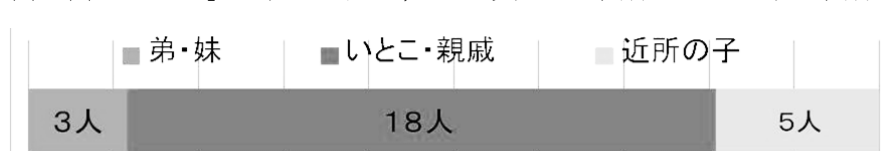
(2) あなたは子どもと触れ合うことが好きですか。



(3) 中学生になってから、幼児と触れ合った経験がありますか。



(4) (3)で「はい」と答えた人は、その幼児との関係はどのような関係ですか。



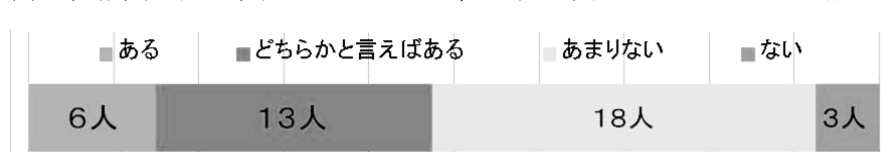
(5) (3)で「はい」と答えた人は、何回程度その経験がありますか。



(6) 幼児と遊ぶ上で大切なことが何か分かりますか。



(7) 幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信がありますか。



<考 察>

アンケートの結果から、保育の学習に興味がある生徒が 25 人、興味がない生徒が 15 人で若干興味のある生徒が多かった。同様に、子どもと触れ合うことが「好き」「どちらかと言えば好き」な生徒も「あまり好きではない」「好きではない」生徒と比べて、わずかに多いという結果が得られたが、保育の学習に興味がない生徒や子どもと触れ合うことに苦手意識を感じている生徒も少なくないことが分かる。幼児との交流経験については、中学生になってから交流の経験がある生徒が 26 人、ない生徒が 14 人であった。また、交流経験のある生徒の交流対象者を見てみると、「弟・妹」が 3 人、「いとこ・親戚」が 18 人と、比較的近い関係の幼児との交流が見られた。更に交流の回数についてみてみると、26 人中 23 人は 10 回未満の経験にとどまった。交流経験については、限られた関係の中での交流であり、10 回以上の交流がある生徒もわずかに 5 人であることから、多くの生徒が幼児とのコミュニケーションの経験や機会が限定的であることが分かる。幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信の「ない」「あまりない」生徒が多いことも、こういった背景が関係していることが予想できる。

そうした中で、幼稚園訪問を見据えた題材の学習を通して、幼児への関心を高めるとともに、適切に関わろうとする態度やそのための知識及び技能を習得させる必要性を感じる。

6 本時の実際（6／14）

(1) 主 題 幼児の遊びを支える

(2) 指導目標

遊び道具の評価を通して、幼児の心身の発達に応じたよりよい遊び道具や遊び方について考えさせ、幼児にとって望ましい遊び道具を工夫させる。

(3) 目標行動

幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べる
ことができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。

(4) 評 価

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術につ いての知識・理解
評価 規 準		幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方について考え、工夫している。		
おおむね 生徒の姿 達成している		幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べる ことができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。		

(5) 授業設計の視点

ア 社会とのつながりを意識させる教材・教具の工夫

授業では学習と日常生活や家庭生活とのつながりを意識させる工夫として、企業が実際に作っている遊び道具の紹介を補充指導の場面に取り入れた。実際に市販されているものの観察から、解決方法について推測させ、より質の高い課題の共有化を図れると考えた。生徒の中に問題意識をほりおこし、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境との関わりの中から課題を見いだすことができるようにした。

イ 最適な解決策を協働して追究させる場の設定

最適な解決策を追究させるための工夫として、「技術・家庭科相互練り上げ7か条」によって他者の考えにも耳を傾けさせ、班活動の活性化を図った。「自己追究」場面において、課題解決に向けた要素を明確にした後に、「相互練り上げ」場面において、グループでチェックポイントをつくる場面を設定した。生徒一人一人が活動に対して自分の意見をもって参加できるよう工夫した。また、問題解決へ向けて練り上げていく視点とプロセスを明確にするために、リーダー育成を充実させるとともに、学習の中でもリーダーを集める場面を設定した。さらに、深化指導として他教科の資料を提示し、より質の高い最適な解決策を追究できるようにした。このような指導の工夫を図ることで、能動性、独自性を発揮しながら、生徒同士が知識と技能を互いに活用しながら、協働的な活動を充実させることができるようにした。

(6) 本時の展開

過程	学習の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	ほりおこし 課題の共有化	5	1 これまでの学習を振り返り、本時に学びたいことを考える。 2 考えたことを発表する。 4 学習課題を設定する。	1 すっどカードにより学びを振り返らせるとともに、本時の学習に関する疑問を想起させる。 (実践編2 p142) 2 これまでの学びや疑問を全体で共有させる。 3 幼稚園訪問における遊び道具の製作に向けて意欲を高めさせる。 5 生徒の発言から学習課題を導き出す。 6 学習課題を設定できない生徒には、補足説明を行う。	1 すっどカード 5 ワークシート すっどカード
			幼児にとって望ましい遊び道具を製作するにはどのようなポイントを考えればよいだろうか。		
展開	自己追究 相互練り上げ	10	7 遊び道具にとって大切な要素を考える。 8 考えた要素について発表し合い、全体で共有し合う。 ☐ 安全性が優れている。 ☐ 幼児の身体や心の発達段階に適している。 ☐ 幼児の成長やコミュニケーションを促す。	7 教師手づくりの遊び道具を観察させて、問題点に気付かせる中で、遊び道具にとって大切な要素に気付かせる。 8 全体で共有させることにより、よりよい遊び道具を製作するために必要な要素に気付かせる。 9 市販の遊び道具や幼児が実際に遊び道具で遊ぶ様子の映像を観察させて、大切な要素に気付かせる。	7 ワークシート 8 ワークシート 9 市販の遊び道具 PC・TV ワークシート
			(5)ーア 社会とのつながりを意識させる教材・教具の活用 (実践編1 p96) 10 考えた要素について、遊び道具のチェック(評価)ポイントを考える。		
終末	自己解決 自己評価	15	11 完成したチェックポイントを発表し、考えを学級全体で共有する。 13 教師の手作り遊び道具をよりよいものへと改善する。 14 ワークシートにまとめる。	11 完成したチェックポイントを共有させ、自分の班のチェックポイントと比較させる。 12 市販の遊び道具を紹介し、これまでの学びを含めて根拠をもってチェックポイントを示すように促す。 13 チェックポイントを参考にさせながら、要素を満たす遊び道具へと改善させる。 14 新たに気づいたこと等は、色を変えて加筆・修正させる。 (実践編2 p143) 15 遊び道具の製作に繋がる各教科での学びを紹介したり、リーダーを集合させ、外部知を入れたりして、よりよい改善策を追究させる。 (実践編1 p97)	11 ワークシート 12 市販の遊び道具 13 ワークシート 14 ワークシート 15 ワークシート 他教科の資料 相互練り上げ7か条 (実践編1 p97)
			(5)ーイ 最適解決策を協働して追究させる場の設定 16 本時のまとめを行い、幼児にとって望ましい遊び道具のポイントを確認する。 ・安全面 ・心身の発達段階 ・成長やコミュニケーションの促進 等のチェックポイントを踏まえて考えればよい。		
		5	17 次時の予告を聞く。	17 幼稚園訪問や遊び道具の製作に向けて、意欲を高めさせるとともに、よりよい改善策を求め続けるように伝える。	16 ワークシート すっどカード

